



学校施設の方向考える

三者対談

子供の未来考え段階的に

小学校は性急論さけよ

本村ではここ数年、出生児の数が減少を続けておりこの傾向は、今後も続くと思われる。このことは、さしあたって学校教育の面に重大な影響を与え、早急な対策の樹立に迫られております。そこで今日は、教育の専門家であります先生方から「学校施設の方向」について、忌憚のない意見を聴かせていただき、村民が、この問題の行く方に正しい判断を下すための参考になればと思ふ次第です。

【伊東助役あいさつから】

子供は多勢の中で

A ずい分くわしく村内の児童、生徒数の推移はか多規模化。中学校は複式とまで

は行かぬにせよ、かなり少ない生徒での学校になることが浮きぼりにされている。小規模学校の悪い点は、教師の研修の場がせまめられる。子どもは多数の中で育つた方が社会性が身につく。

B 一学級四〇〜四五人が理想的な学級だと言われている。考えようでは先生一人対生徒一人の方が覚えやすい。しかし子どもは多勢の中で陶冶(とうや)されねば社会性が身につかない。教育のねらいは、人間性の形成を基調にしており、一対一の場で作られた人間は片輪なものでしかなく、今後何十年もの社会の担い手とはなり得ないし、第一そういう人間は社会が要求しないだろう。

C 一般では学校教育というものは、教科書に盛られたことだけを指導すればよいとの間違った理解があるかも知れない。子どもの自主性・創造性を引き出して育てていくのが重要である。したがって特別教育・学校行事・道徳教育

・クラブ活動の場がなければならぬ。生徒数が多くても限度があるが、少ななくてはこの分野が成り立たない。

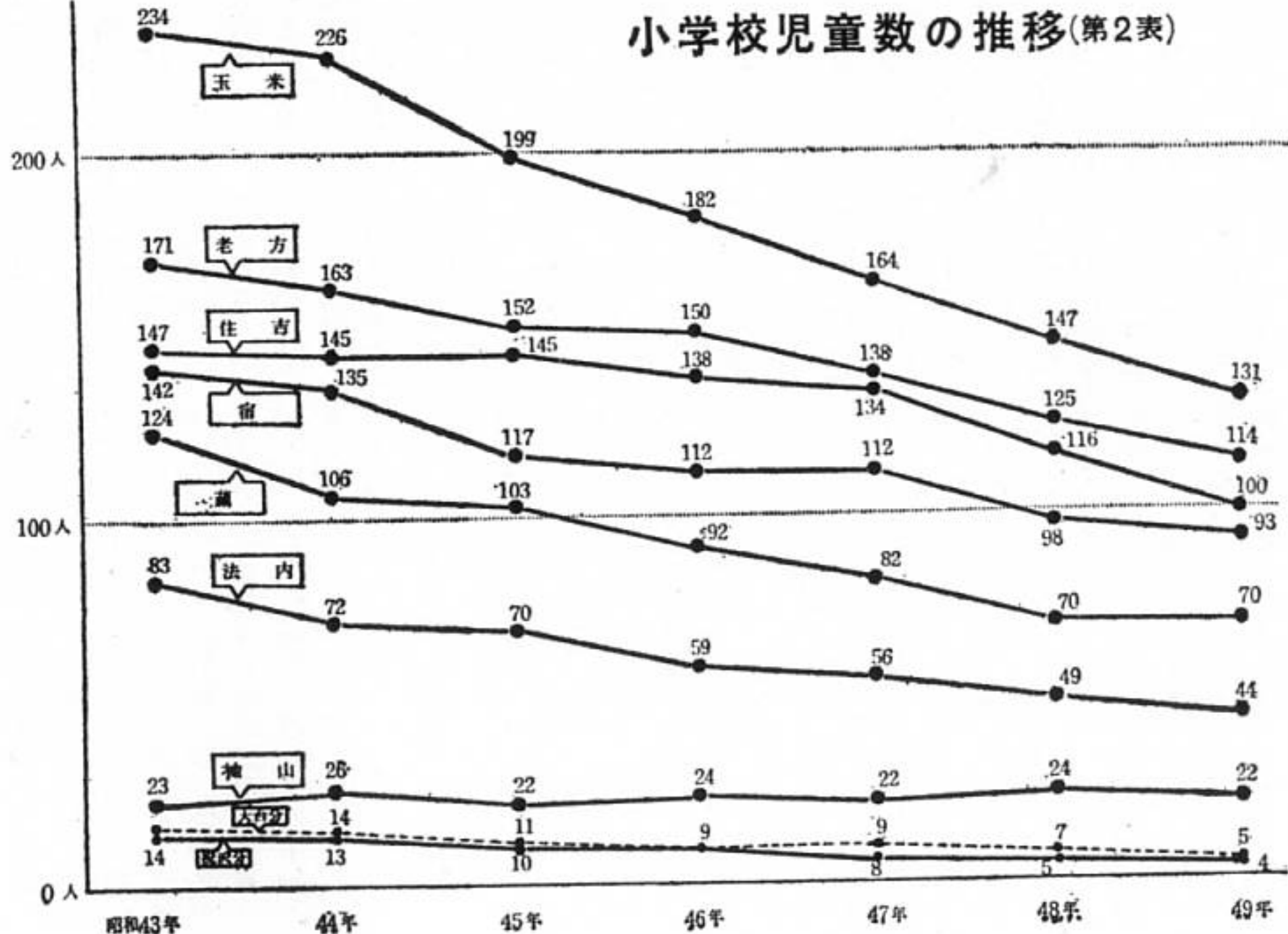
中学は一村一校

A 県内でも町村の合併はしたが学校の位置や場所は旧態依然のところが多い。新村のビジョンの中には、当然に地域感情を払拭するための教育の方向がなされていなければならぬ。

B 同級生の意識、同窓生の意識、この中で人間の結びつきは非常に強いものだ。これが長じた場合での郷土愛の意識を考えると、旧村そのまの名称での二つの中学校が、一つの村を手を取り合いながら愛していく、いわゆる仲間になりきれぬだろうかという感じもする。

C うちの学校では雪の間に十分な体力をと思つて放課後に男子は六〇〇メートル女子は五〇〇メートル駆け足をして遊んでいる。ことに積雪は、生徒会活動もますます活発さを加えるだろうから、生徒会室・クラブ部室・相談室など。また冬期間が長いので子どもが存分に体を伸ばせる体育館を。

小学校児童数の推移(第2表)



A 金があり余って学校を建てる町村がどこにあるだろうか。まず統合中学校案には異論がないのではなからうか。中学校が一つであれば毎年の教育予算も効率的に生かされる利点もある。

B 現状の学校数では、村としては少額でない教育予算と思つたろうが、配分されてみると校舎の小破修繕などで吹っ飛んでしまふからな。

C 統合中学校を建てる場合おそく文部省で認める基準があるが、さつき述べたように教科書だけの指導ではないので、中学校としての機能が十分果されるような、例えそれが基準外であったとしても思い切つて当初計画に織りこんで設備してはいい。例として、生徒会活動もますます活発さを加えるだろうから、生徒会室・クラブ部室・相談室など。また冬期間が長いので子どもが存分に体を伸ばせる体育館を。

A うちの学校では雪の間に十分な体力をと思つて放課後に男子は六〇〇メートル女子は五〇〇メートル駆け足をして遊んでいる。ことに積雪は、生徒会活動もますます活発さを加えるだろうから、生徒会室・クラブ部室・相談室など。また冬期間が長いので子どもが存分に体を伸ばせる体育館を。



【木島氏】



【木村氏】



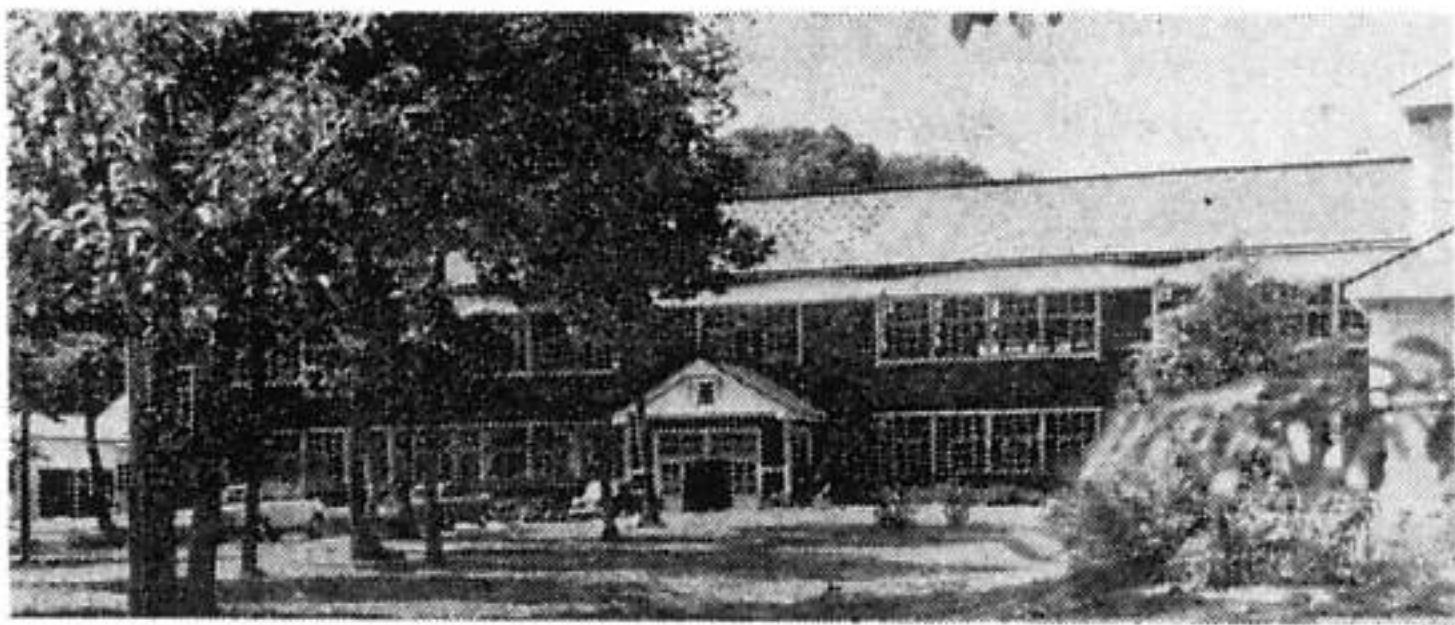
【進藤氏】

小学校対策は白紙

何れ検討の時期来より

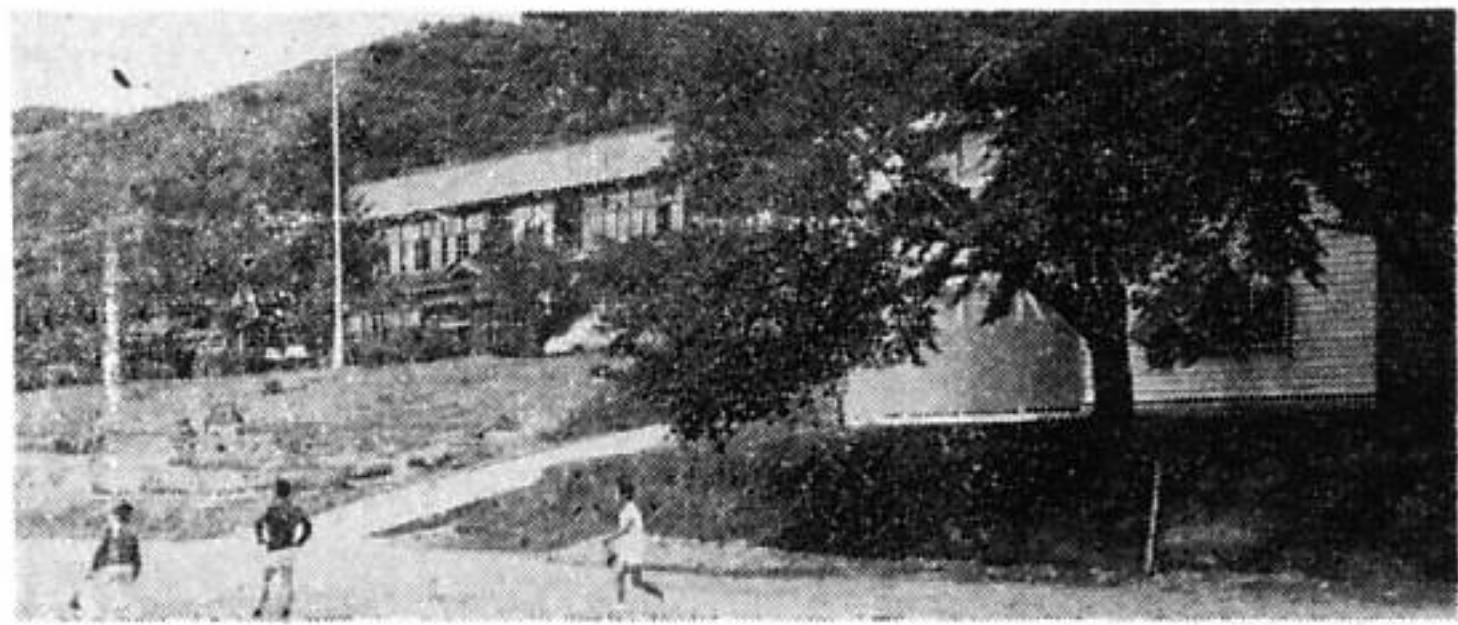
昭和22年4月、新制中学校が創立されてから20年余の歳月があった。この間ここからは、4,652名の若人が希望に燃えながら巣立って行つた。そして今、社会の激しい流れに乗つて、新しく生まれ変わろうとする胎動期にさしかかつた。

【玉 米 中 学 校】



▶面積、校舎2,426㎡(734坪)屋内体操場526㎡(159坪)▶生徒数269名▶学級数8▶教員数14名▶卒業生の数1,806名

【下 郷 中 学 校】



▶面積、校舎2,529㎡(765坪)屋内体操場585㎡(177坪)▶生徒数412名▶学級数11▶教員数18名▶卒業生の数2,846名

本村には現在、七つの小学校と祝賀・大台ふたつの常設分校と高村・沼ふたつの冬期分校がある。そしてここには、いま九五四人の児童が学んでいる。それが六年後には五八三人になるというのである。それは具体的な、児童の少数化が小学校教育の上に、どんな形で影響するのかを考えてみよう。

人間形成の過程の中で、小学校児童が年令的にどのような位置にあるのか。とかいふことはさておき、▼多数の中分校と高村・沼ふたつの冬期分校がある。そしてここには、いま九五四人の児童が学んでいる。それが六年後には五八三人になるというのである。それは具体的な、児童の少数化が小学校教育の上に、どんな形で影響するのかを考えてみよう。

単式学級二校だけ将来、基準が改善される動

49年度に複式の学級が出て来る。こう述べてみると、小学校の問題もまた今日的なものとして対策を急がねばならないが、さて中学生を子にもつ親たちは、ある程度の通学距離を通過せざるを得ない。環境の下で教育を受けさせる方法を選ぶだろうが、幼い小学生をもつ親の気持ちはどうだろうか。

母親の肌の暖かさが通学距離の中で育てたい願望が根強いのはあるまいか。ともかく現状は、この七つの小学校を今後どのような形にして行くかの対策は、全く立っていない。しかし、大きな課題として検討が加えられる時期が訪れるであろう。

花子 学校の生徒の数が急に減っていくといいますが本当ですか。

太郎 前からそういう話があったが、こんど教育委員会から発表になった数字では、予想以上の激減だね。

花子 どんな具合なんですか。

今年の一〇一割に減つてしまふ花子 去年から一年間の出生児は何人でした。

太郎 七人だったそうだが近ごろは年々減つていくから近い将来、この数より殖えると思われねえ。

花子 そうしますと、もう

うなずける統合中学案

事情知って花子さんに自信

七〇八年で全村の小学校生徒は四〇〇人台になりますね。太郎 淋しいが、そういうことになるね。

花子 では中学校の方はどうなんですか。

太郎 現在の六八一人が昭和五五年になると、そう、42年度に生まれた子どもが中学校

太郎 それだけならまだしも、先生の数も減つて専門教科外の科目を、いくつもかけて、先生が悲鳴をあげますよ。花子 国語の先生から英語を習ったり美術を習ったり生徒からも悲鳴が上がりそう

花子 現実に学級が減つてから統合する。こんなのはどうでしょう。

太郎 いや、そうやってからでは国庫補助金や、起債といつて24年かかって返せばよい借金のワケが小規模になつて満足な学校が建たなくなる。一四〜一三学級のうちに踏

花子 それだけ税金が高くなる

なるのでは。家もほとんどは火の車なんですけど。太郎 これをやったからといって税金には響かせたくないです。

花子 前にも統合中学校の話がありましたし、こう話し合つてみまう、いつまでも今のままの姿にとらわれては大変な悔いを残しますし、なんとか、出来るだけ早く新しい方向にスタートさせたいものだといふ感じが強まってきました。

今月の納税 10月の納税は村県民税と固定資産税それぞれ第三期分です。お早目にどうぞ。

秋の交通安全旬間 10月11〜20日

